式辞

本日、津幡町町長　矢田富郎様をはじめとするご来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、津幡町立津幡中学校第七十七回卒業証書授与式を挙行できますことは、 卒業生はもとより教職員にとりましても、大きな喜びでございます。

ご臨席を賜りました皆様方には、日頃から本校の教育に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらには巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただきましたことに、心からお礼を申し上げます。

本校を巣立つ百六十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、この一年、伝統ある津幡中学校の「最高学年」「学校の顔」として、学習や部活動、運動会や合唱コンクール等の各種行事で、先頭に立って１、２年生を引っ張ってくれました。

９月に行われた運動会。「ALL STARS」のスローガンのもと、競技に臨む真剣な姿、必死で仲間を応援する姿、そして勝利した瞬間、喜びを爆発させた弾ける笑顔の数々が、今でも目に浮かんできます。そしてアピールタイム。各クラスの応援リーダーを中心にみんなで作り上げたパフォーマンス。何回かの団練習を通して、３年生のこの一瞬に懸ける思いが１、２年生にも伝わりました。本番では各団の心が一つになった見事なパフォーマンスの数々が繰り広げられました。まさしく一人一人が輝く星となりました。

１０月に行われた合唱コンクール。「天歌夢奏～美声を響かせろ～」のスローガンのもと、各クラスで創り上げた「最高学年」としての素晴らしいハーモニ

一が、ホールいっぱいに響き渡りました。「群青」「手紙」「友」「虹」「地球星歌」どのクラスの歌声も甲乙つけがたく、心が震えるほど感動しました。運動会、合唱コンクール等の行事で発揮した皆さんのエネルギーとパワーを、これからは１、２年生が引き継いでくれます。３年生の皆さん、本当にありがとう。

皆さんは部活動でも、あるいは外部の様々な活動でも頑張ってくれました。この２年間、たくさんの試合を見させてもらいました。自分たちの持てる力を精一杯発揮しようと奮闘する姿の数々が、今でも目に浮かんできます。そして、中でも、陸上競技女子走り幅跳びの藤本茉優さんの活躍は特筆すべきものでした。夏の全国大会での２連覇は、石川県勢初の快挙であり、その瞬間に立ち会えたことは、私にとって本当に幸せなことでした。

さて、仲間とともに過ごした中学校の３年間、時に傷つき、時に気持ちがすれ違い、涙した日もあったことでしょう。しかし、それ以上に、ともに喜びを分かち合い、仲間の優しさに心癒され、励まされ、勇気をもらったこともあったでしょう。そして、様々なことがあった中学校生活を、皆さん一人一人に寄り添い、優しいまなざしで見守り、頑張り努力する姿を褒め、認め、支え、ともに喜び、涙してくれた先生方がいてくれたことを決して忘れないでください。

皆さんは卒業して、それぞれの新たな道に進みます。津幡中学校には、小学校が同じだったり、この地域に住んでいて価値観が似ていたり、あなたがたのことを知っている、理解してくれる人が多くいました。しかし、４月からの新たな場所は、全く知らない人もいたり、きっと雰囲気も違うでしょう。そして、

これからは、考え方や価値観が違う人と関わる機会が多くなります。戸惑うこともあるでしょう。しかし、初めての人、自分と少し考え方の違う人との出会いを恐れないでください。違う価値観の人と付き合うことは、自分の心の窓を開いてくれ、新たな広い世界を知るチャンスです。「人はこんなふうに考えるのか」「あの人の見方は全く違うな」等、たくさんの刺激を得ることができます。人と話すことは相手を知ることでもあり、今まで知らなかった自分自身を知ることにもなります。そこで大切なのは、「他人は自分とは違う」という認識です。相手を初めから否定せずに、歩み寄り、互いの人権を尊重しながら、困難や課題を解決するために、お互いが納得できる答え、課題解決への「納得解」を導き出す姿勢、力を、身に付けていってください。

皆さんはこれからも多くの人やもの、事に出会うでしょう。その中には、大切にしたい人との出会いや生涯をかけて打ち込みたい仕事との出会いがきっとあります。これらの出会いを成長のチャンスにするため、いつも温かく見守り、応援してくれる家族、友人、地域の方、先生方などに感謝の心を忘れず、これからの津幡町、そして日本、さらには世界に貢献する人、活躍する人になることを心から願っています。

保護者の皆様に一言お祝いを申し上げます。保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。この世に生を受け、ミルクがほしいと泣くことしかできなかった赤ん坊の頃から、少しずつできることが増え、と同時に、病気や怪我など、心配なことも増える毎日だったのではないでしょうか。中学生になり、この三年間、反抗期のお子様もいたのではないでしょうか。時には、叱り、励ま

し、心を痛められたこともあったかと思います。様々な経験を通して、お子様は、心も、身体も、立派に成長しました。本日のお子さんの姿をご覧になり、感慨も、ひとしおのことと存じます。保護者の皆様には、育友会活動へのご協力や部活動の大会での温かい声援など、よくお子さんを支えてくださいました。これからも、どうかお子さんの一番の良きサポーターでいてください。

いよいよ、お別れのときが近づいて参りました。皆さんと過ごした二年間は、私の人生にとってかけがえのないものであり、皆さんと出会えたことを誇りに思います。なごりは尽きませんが、本校を巣立っていく百六十三名の皆さん、一人一人の洋々たる前途を祈念しまして、式辞といたします。

卒業生の皆さん、本当にありがとう。

令和七年三月十四日

津幡町立津幡中学校長　　泉　智一